

## 船舶インシデント調査報告書

平成22年9月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 根本 美 奈

インシデント種類	運航不能（機関損傷）
発生日時	平成22年1月18日 23時30分ごろ
発生場所	石川県金沢市 金沢港西防波堤灯台から真方位001° 2.4海里付近 （概位 北緯36° 41.0′ 東経136° 36.0′）
インシデント調査の経過	平成22年4月2日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 第八光福丸、13トン
船舶番号、船舶所有者等	IK2-5710（漁船登録番号）、大杉水産株式会社
L×B×D、船質	18.33m(Lr)×4.23m×1.49m、FRP
機関、出力、進水等	ディーゼル機関、漁船法馬力数160、平成17年8月27日
乗組員等に関する情報	機関長 男性 46歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和59年9月27日 免許証交付日 平成21年8月3日 （平成26年9月26日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	主機直結潤滑油（LO）ポンプのケーシング割損 主機全シリンダのクランクピン軸受メタル焼損
インシデントの経過	本船は、金沢港北西沖の漁場でのかに底びき網漁の目的で、平成22年1月18日23時00分ごろ同港の岸壁を発し、防波堤の先端を通過した直後の23時30分ごろ、主機LOの圧力低下警報が作動し、続いてLO圧力低下の自動停止装置が作動した。 本船は、主機の運転と運航の継続が不能となり、僚船にえい航されて金沢港に引き返した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南西、風力 3、視界 良好 海象：穏やか
その他の事項	主機直結駆動のLOポンプは、クランク室の底部に取り付けられており、定期的な開放や整備などは行われていなかった。 LOポンプは、歯車ポンプで、ポンプ出口に安全弁が付属していた。 LOポンプのケーシングにき裂が生じてLOの圧力が低下し、潤滑が阻害されてクランクピン軸受メタルが焼損した。 本船は、約4年半前に新造されたが、主機は中古機関で、運転期間は10年を超えていた。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし あり なし 本船は、金沢港北西沖の漁場に向けて航行中、主機L Oポンプのケーシングにき裂が生じてL O圧力が低下し、潤滑が阻害されてクランクピン軸受けのメタルが焼損したものと考えられる。 L Oポンプのケーシングは、潜在していた微小き裂の進行、安全弁の不良による出口圧力の異常上昇、腐食、機関振動等の影響で、き裂を生じた可能性があると考えられるが、き裂発生状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本インシデントは、本船が、金沢港北西沖の漁場に向けて航行中、主機のクランク室内に設置された機関直結駆動のL Oポンプケーシングにき裂が生じたため、主機L Oの圧力が低下して全クランクピン軸受けのメタルが焼損し、主機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。	